

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

**\* 井上四郎資料 1 (初代東京天文台長寺尾寿の記念行事の集合写真)**

東京大学100年史部局3、東京天文台編・太陽物理の項に以下の文がある。

「太陽写真儀室においてクック製18cm(焦点距離213cm)対物レンズに写真機を併用して直径6cmの太陽像の写真観測が井上四郎によって実施された。」

この井上四郎氏のお孫さんに会う機会があった。お孫さんとはいえ83歳の上品なご婦人であった。写真1がご自宅でお目にかかった際の井上四郎氏関係の写真を前にしたお元気な姿である。

写真 1

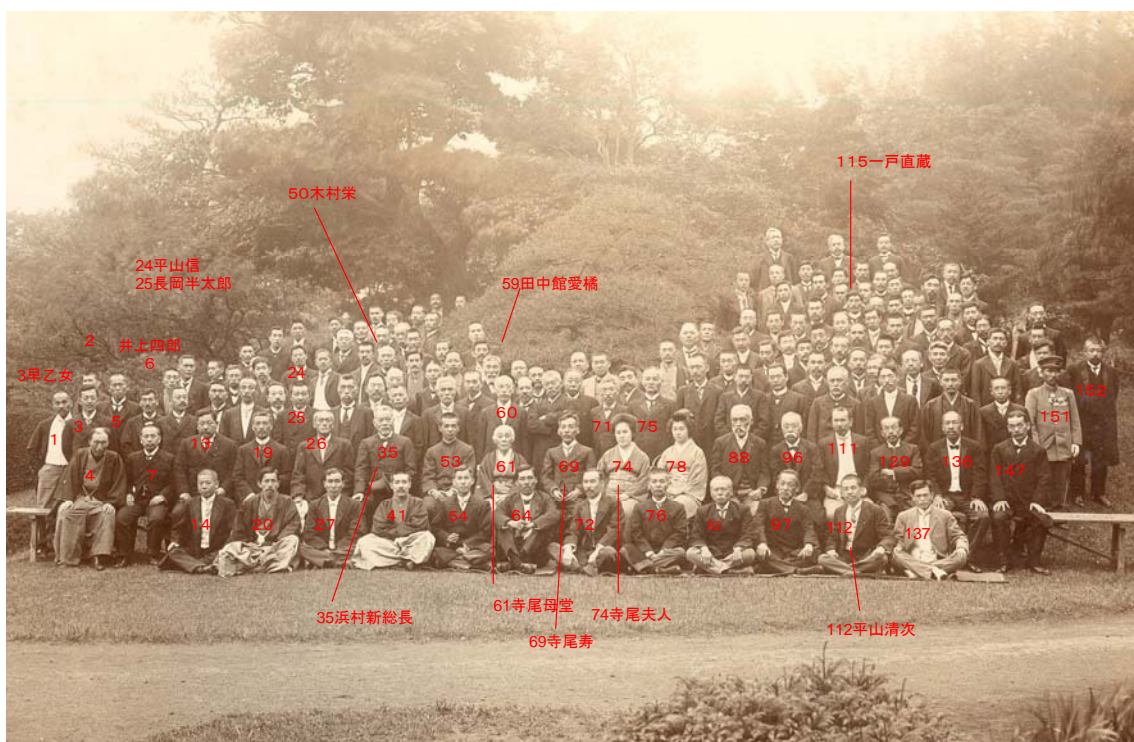


井上四郎氏は大正11~12年頃、東京天文台で太陽観測をされた方で、官舎にお住まいであった。官舎時代の貴重なものは殆んど骨董屋に手放されたそうであるが、幾つかの道具と写真類は保存されていた。その写真の中に貴重な1点があった。写真2がそれである。



写真 2

この写真は、初代東京天文台長で31年間も台長職にあった寺尾寿を中心にご母堂、夫人が両側に写った153人もの集合写真である。この人の配置、時の東大総長も写っていることから、寺尾寿の記念すべき行事の記念写真であることが伺われる。この写真の重要なことは、写っている153人の内135人の方々のお名前が分かることである。主な方々は、寺尾寿、寺尾ご母堂、寺尾夫人、浜尾新東大総長、早乙女清房、井上四郎、平山信、長岡半太郎、木村栄、福見尚文、田中館愛橋、平山清次、一戸直蔵らである。中桐はまだ歴史的な調査に手を染めたばかりで、この写真の中に写っている重要人物を知らない場合があることをお許しいただきたい。今回のアーカイブ室新聞18号はこの貴重な写真を発見した速報とご理解いただきたい。写真3は今現在重要と思われるお名前を入れた写真である。



### 写真 3

この写真に写っている人物は当時の東京在住の天文学者を網羅しているのではないかと思われ、非常に貴重な写真が発見されたのではないだろうか。

中桐は、この写真の発見に興奮した状態にある。3月23日にあった日本天文学会100年記念誌、また行事のときに展示された写真の中にもこの写真は無かったと思うが、153人もの人が写った写真だから、既にこの写真の事が知られており、騒ぎすぎであった場合にはお許しいただきたい。